

ていばーく所蔵資料紹介

まぼろしの絵巻「東海道絵巻」



「東海道絵巻」は、江戸時代中期に幕府の要職を務めた秋元喬知の遺品として旧子爵の秋元家が所蔵していたもので、大正12年の関東大震災により焼失してしまいました。

当館では、平成6年、この失われた東海道絵巻全巻を撮影した写真帳を発見し、デジタル画像処理による精密な修復を行った結果、その全貌を明らかにすることができました。

写真は、東海道絵巻の冒頭の部分である江戸城の図です。江戸城内閣の中心本丸は、将軍が生活し、また政務を行う場所でした。本丸の中心となる建物が、本丸御殿と天守閣で、この図では中雀門から御殿玄関を望む方向で詳しく描かれています。

左下に見える門は大手門、左上に見えるのは内桜田門と思われます。

(表紙解説)

東海道五拾三次之内 日本橋 行列振出

初代広重の代表作として名高い保永堂版「東海道五十三次」の最初の場面である。日本橋は初版の「朝之景」が一般的に知られているが、この「行列振出」は変り図で、人物が賑やかに描かれている。